

建築文化週間 2012

「山陰モダニズム —菊竹清訓氏の作品を中心に—」

近年、初期モダニズム建築の耐用年限が訪れたことから全国各地で建て替えや増改築の問題が発生している。その際、初期モダニズム建築の社会的、歴史的な意義、あるいは良いものを維持活用して豊かな持続可能社会を実現したいとする価値観の転換から、初期モダニズム建築の保存や利活用を求める声が増大している。

ここ山陰にも多くのすばらしいモダニズム建築があり、とくに近年逝去された菊竹清訓氏の作品は多く残され、氏の創作活動を辿る上でも重要な地域である。そこで菊竹氏の作品を中心に、近代モダニズム建築の保存や利活用の際に核心となるオーセンティシティとは何かを探り、全国の実例報告を交えながら、初期モダニズム建築の保存運動について議論を深めたい。

後援（予定） 島根県教育委員会、鳥取県教育委員会、松江市教育委員会、米子市教育委員会、NHK松江放送局、新日本海新聞社、山陰中央新報、島根県建築士会、鳥取県建築士会、日本建築家協会中国支部、島根県建築士事務所協会、鳥取県建築士事務所協会

日時 10月13日（土）・14日（日）

1日目（10月13日土曜日）***スケジュールは、後日このHPに掲載します。**

近代建築見学バスツアー（見学先：松江市・米子市などの初期近代建築）

2日目（10月14日日曜日）

シンポジウム 会場：くにびきメッセ・501大会議室（島根県松江市学園南1-2-1）

司会：千代章一郎（広島大学）

13:00 開会の挨拶（日本建築学会中国支部長）

13:05 主旨説明（実行委員会）

13:10 山陰における菊竹作品について（遠藤勝勸 遠藤勝勸建築設計室事務所）

14:00 米子市公会堂の保存活動について（藤木竜也 米子高専）

14:30 休憩

14:45 近代建築保存運動について（中川理 京都工芸繊維大）

15:30 関東の近代建築保存活動について（山崎鯛介 千葉工大）

16:15 質疑応答

16:55 閉会の挨拶（日本建築学会中国支部）

参加対象：一般市民、建築関係者、学生

定員：初日バスツアー定員40名、2日目シンポジウム定員150名

参加費：無料

申し込み方法：バスツアー申込受付期間—9月1日～ 9月30日。シンポジウム（当日先着順）

問合せ・申し込み受付係、米子高専・藤木竜也（E-mail：fujiki@yonago-k.ac.jp）